

植樹式 2006



時の蘇生・柿の木プロジェクト

3 月 26 日		エジャートン墓地 イギリス・ハダーズフィールド		1
5 月 27 日		横浜市民ギャラリーあざみ野 日本・神奈川県・横浜市		2
6 月 5 日		ジョバンニ・パスコリ小学校 イタリア・ピサ県・ジュリアーノ・テルメ市		3
6 月 9 日		クロイツリンゲン、ボーデン湖畔公園 スイス・クロイツリンゲン		4
9 月 11 日		プエルト・リコ現代美術館 プエルトリコ・サントウルス		5
		江東こどもの国 日本・岐阜県・大垣市		
		大垣市立上石津中学校 日本・岐阜県・大垣市		
		大垣市浅中公園 日本・岐阜県・大垣市		

エジャートン墓地



イギリス



ハダースフィールド



2006年3月26日

プレイスのジョナサン・アダムソンさんは、2002年3月15日に植樹を行ったイギリス・グロウスターのブルース・アレンさんに柿の木プロジェクトの話を聞き、エジャートン墓地長崎・広島メモリアルサイトへの植樹を申し込んできました。プレイスは、公的機関の代理として、このメモリアルサイトに記念碑をたてることを推進しており、自治体の墓地協会の支援も得て活動しています。エジャートン



墓地は150年の歴史があり、ハダースフィールドの街の中心部から3/4マイルに位置しています。今回新たに建設される長崎・広島記念碑の近く、墓地の中心部に柿の木は植樹されることになっていますが、柿の木がきちんと根付くまで、ジョナサンさんの意向により、多くの人

を招いた植樹式は開催しない予定です。苗木は既にエジャートンに到着し、数名のこども達と一緒に仮植え式が行われました。ジョナサンさんは、ハダースフィールドに「時の蘇生」の象徴的な場所をつくり、教育などに役立てたいと考えています。



横浜市民ギャラリーあざみ野

🇯🇵 日本

📍 横浜市

🌱 2006 年 5 月 27 日



2005 年 5 月 13 日に植樹した神奈川県川崎市の柿の実幼稚園の美術指導をしている矢野真一先生が、横浜市民ギャラリーあざみ野開館準備室に、柿の木プロジェクトを紹介してくださったことにより、今回、横浜市民ギャラリーあざみ野の植樹が実現しました。開館間もない市民ギャラリーはとても広く、市民、こども達の出入りがとても多くあります。

植樹式は残念ながら、小雨のお天気でしたが、開始時間になると、事前に申し込みをしたこども達、また当日の飛び入り参加のこども達 30 名ほどが、1 階エントランスのホールに集まってきました。参加するこども達は、みんな首に柿色のリボンをまいています。植樹に先がけ、ホール

でアートフォーラムあざみ野の館長林信行氏、海老沼正幸先生、小池伸男先生、宮島達男の話がありました。



その後 こども達は、ギャラリーのボランティアスタッフによる「柿の木おやこ」の紙芝居を見て、これから植樹する「被爆二世の柿の木」について、勉強しました。そして、みんなで意見を出し合い、柿の木の名前を「のびのびくん」に決定しました。一同 屋外へ移動し、正面エントランスの左の花壇に柿の木を植樹しました。小さい子から大人まで参加者全員が、柿の木に土をかけていきました。

植樹後に矢野真一先生の指導のもと、ワークショップを行いました。事前に市内の幼稚園、小学校で絵やメッセージを描いた白い紙コップが用意されており、また、床には白い紙コップで大きな柿の実が 2 個 形作られています。こども達は 2 つのグループに別れ、ひとつのグループはこの出来上がっている紙コップをどんどん積み上げていきます。またもうひとつのグループは 2 階の市民ギャラリーのアトリエで、白い紙コップに絵やメッセージを描いていきます。こども達は、夢中になって、紙コップを自分の背丈よりも高く、高く積み上げていきます。途中で交代したこども達によって、とても大きなオブジェが完成。階段の上からみるこれらの作品は、圧巻でした。



ジョバンニ・パスコリ小学校

イタリア



ピサ県・ジュリアーノ・テルメ市



2006 年 6 月 5 日



植樹申込をしてくれたジョバンニ・バッティスタ・ニッコリーニ学校は、2000 年 4 月 1 日に植樹を実施したイタリアのポッジボーン市の人から柿の木プロジェクトの話を聞いて、自分の市にも植樹したいと考え、アンドレア・ファミリーエッティ校長先生とプロジェクトリーダーのソニア・ピエラッチョーニさんが申込みをしてきました。ジョバンニ・バッティスタ・ニッコリーニ学校は 10 の各学校からなる公立の学校で、3 歳から 19 歳までの約 1200 人を擁するピサ県では 2 番目に大きい学校です。植樹場所として 10 校のうちの 1 校であるジョバンニ・パスコリ小学校の校庭が選ばれました。

植樹式当日には、校舎の入り口に大きな柿の木とオリーブの絵が描かれ、校庭にはこども達による大きな絵の展示が行われていました。ジョバンニ・バッティスタ・ニッコリーニ学校のこども達がバスに乗って次々と集まってきました。日本とイタリアの国歌が流れ、副市長の挨拶に続き、関係者、海老沼先生の話があり、アニャーノ幼稚園のこども達による「先生と苗木」という歌とかわいいダンスが披露されました。その

後、柿の木のために造られた立派な大きな柵の中、校庭の真ん中に柿の木は植樹されました。植樹作業の間にトランペットの「沈黙」と題する曲の独奏があり、厳かな雰囲気をつくりあげていました。続いて、柿の木プロジェクトと現地事務局がタテと柿の木プロジェクトふろしきの交換を行い、みんなで記念撮影をして、植樹式は終わりました。今回の植樹式には、サンマリノ共和国の植樹の時にお世話になった鈴木正子さんが通訳のお手伝いをしてくださいました。またもう 1 本の柿の木はサン・ジュリアーノ・テルメ市内の平和公園に植樹予定です。

さらに植樹と同日の午後 6 時から G.B. ニッコリーニ学校本部の校庭で”Briciole di Pace”(平和のかけら)と呼ばれる毎年年度末恒例の平和をテーマとするイベントが開催されました。今年は柿の木をテーマとし、幼稚園から高校までの生徒による歌や踊りの発表、作品展示が行われました。どれも平和や柿の木にちなんだもので、1400 人ともいわれる町の人々が集まり、大変盛況なイベントでした。

クロイツリンゲン ボーデン湖畔公園



スイス



クロイツリンゲン



2006 年 6 月 9 日



クロイツリンゲンはボーデン湖に面したドイツ国境にある、チューリッヒから約 60 キロに位置する美しい町です。植樹申込をしてくれたのは、コリーナ・ブランコさんで、BBC のホームページで、柿の木プロジェクトのことを知り、友人のヴァルター・ベルチさんと一緒にワークショップや植樹場所のことを話し合い、クロイツリンゲン市に協力をお願いし、植樹を実現しました。植樹場所は、現在は大学が所有しているボーデン湖沿いにある屋敷の大きな庭で、手入れの行き届いた広大な庭はクロイツリンゲン市の管轄になっています。

植樹式には近隣の小学校の子ども達が集まり、クロイツリンゲン市長、市の教育課長などクロイツリンゲン市の人々も大勢参加してくれました。ヴァルター・ベルチさんの司会挨拶に続き、

シタールによるネパール伝統音楽の演奏があり、その後植樹となりました。子ども達が代わる代わる両手いっぱいの土をポットに入れていきました。今回の植樹では、冬季に -10 度まで下がることを考え、大きなポット植えにして、3 年ほどこのまま温室に入れるなどして様子をみていくことになっています。植樹後は子ども達による「さくら」の合奏、歌、詩の朗読に続き、海老沼先生の挨拶がありました。ジャンベの演奏、柿の木ふろしきの贈呈、コリーナ・ブランコさんの挨拶に続き、最後に子ども達が 1000 羽の折鶴を柿の木のまわりにおき、植樹式をしめくくりました。色とりどり折鶴に囲まれた柿の木はとても美しいものでした。また、1000 羽の折鶴は、定子の鶴にちなんで、植樹に先がけ、4 つの小学校の子ども達が、一人ずつ 3 羽ずつ折ってくれたものです。



プエルト・リコ現代美術館



プエルトリコ



サントウルス



2006 年 9 月 11 日

プエルト・リコは、年間平均気温が 25 度前後で、雨期と乾期に分かれています。植樹を申し込んでくれたのは、アーティストのエリアス・アダスム・アブラッアさんです。エリアスさんを中心にプエルト・リコ現代美術館、アムネスティー・インターナショナル・プエルト・リコ、他のいくつかの文化機関が協力、参加し、プエルト・リコ現代美術館の庭で植樹準備が進められました。世界平和のため 9.11 に植樹したいというエリアスさんの強い要望があり、柿の木の苗木は輸送可能な春の時期に日本からプエルト・リコに送り、4 月から 9 月まで鉢植えにして大切に保管されてきました。

美術館には美しく、大きな庭があり、植樹式には大勢のこども達が集まってくれました。柿の木にはこども達によって土がかけられ、植樹は無事に終了しました。柿の実に扮した数名のかわいいこども達が印象的でした。

植樹後の 2006 年 9 月 15 日から 10 月 22 日には、柿の木プロジェクトの展示会も開催されました。エリアスさんは、自分の生まれ故郷のチリにも柿の木を植樹したいと希望しています。

